

英語

小学英语

●改訂のポイント

- ・外国語活動(領域)・外国語科(教科)への移行

→到達目標を設定することで、目標と内容の違いが明確になっている。

※目標「外国語を使って何ができるようになるか」。内容「知識及び技能、思考力・判断力・表現力等」。

- ・小学校外国語は、中学校英語の前倒しではない
- ・資質・能力の育成に基づく領域の見直し

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	小5~6は外国語活動	小5~6は外国語科へ移行期間 小3~4は外国語活動へ移行期間		小5~6は外国語科 小3~4は外国語活動
小6	35	50 [+15]	50 [+15]	70 [+35]
小5	35	50 [+15]	50 [+15]	70 [+35]
小4		15 [+15]	15 [+15]	35 [+35]
小3		15 [+15]	15 [+15]	35 [+35]

※ 数字は年間授業時間数

●外国語活動と外国語科の領域の比較

領域	小3~4	小5~6
	2技能3領域	4技能5領域
1	聞くこと	聞くこと
2	話すこと(やり取り)	話すこと(やり取り)
3	話すこと(発表)	話すこと(発表)
4		読むこと
5		書くこと

※「読むこと」「書くこと」が教科化になり増えた項目です。

「読むこと」

- (ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかや、その文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
- (イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。
- (ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
- (エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

「書くこと」

- (ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。
- (イ) 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。
- (ウ) 相手に伝えるなどの目的をもって、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。
- (エ) 相手に伝えるなどの目的をもって、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動

※「書く」といっても、文章を作って書くものではありません。書き写すことが主体になります。小3~4は、現在の小5~6と同じことを学習します。基本的には、「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」のみです。

●小3~4の主な学習内容

目標：外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、**コミュニケーションを図る素地**となる資質・能力を育成する。

→日本語と外国語の違い等に気づく、伝え合う力の素地を養うなど。

●小5~6の主な学習内容

目標：外国語によるコミュニケーションにおける、見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の言語活動を通して、**コミュニケーションを図る基礎**となる資質・能力を育成する。

→形式的には小3、4と同一の書き方。違いは、目標に「読むこと」「話すこと」が加えられたことと、「**コミュニケーションを図る基礎**」へとレベルアップしていること。

■■…移行期間中に必ず扱われる内容

- ・ 600～700 語
 - ・ 活字体の大文字, 小文字
 - ・ 連語のうち, 活用頻度の高い基本的な get up, look at など
 - ・ 慣用表現のうち, 活用頻度の高い基本的な excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome など
 - ・ 代名詞のうち, I, you, he, she などの基本的なものを含むもの
 - ・ 動名詞や過去形のうち, 活用頻度の高い基本的なものを含むもの
 - ・ [主語 + 動詞]
 - ・ [主語 + 動詞 + 補語] のうち, 主語 + be 動詞 + 名詞/代名詞/形容詞
 - ・ [主語 + 動詞 + 目的語] のうち, 主語 + 動詞 + 名詞/代名詞
- ※言葉としては扱わないが、第1～第3文型を扱うことになります。

- ・ **中学**から移動したもの ※中学入学段階ですでに学習している可能性もある。

単文 平叙文(肯定, 否定) 命令文(肯定, 否定) 疑問文のうち, be 動詞で始まるもの 助動詞(can, do など)で始まるもの 疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの

※小学校の移行期間中に、文科省としては先行実施を推奨しており、自治体や学校により対応がバラバラなため。

中学英語

●領域の新旧比較

領域	現行版	改訂版
	4 技能 4 領域	4 技能 5 領域
1	聞くこと	聞くこと
2	話すこと	話すこと(やり取り)
3	読むこと	話すこと(発表)
4	書くこと	読むこと
5		書くこと

※小5～6と同一の領域

- ① 目標と3つの柱が明確化
- ② 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる。
- ③ 学びの過程としての言語活動の充実
- ④ 資質・能力の育成に基づく領域の見直し

「聞くこと」

- ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようになる。
- イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようになる。
- ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようになる。

※上記のように、5領域それぞれにおいて、具体的な条件や場が3段階に分かれ、「～できるようになる」という指標形式になり、CAN-DOを意識した書き方になっている。

●主な追加内容

- ・ 現行版では1,200語
⇒ 改訂版では小学で学習した600～700語に、新たに1,600～1,800語追加
- ・ 授業は英語で行うことを基本
- ・ 高校から移動したもの

感嘆文のうち基本的なもの
 主語 + 動詞 + 間接目的語 + that で始まる節 / whatなどで始まる節
 主語 + 動詞 + 目的語 + 原形不定詞
 主語 + be 動詞 + 形容詞 + that で始まる節
 現在完了進行形
 仮定法のうち基本的なもの

※現在完了形は「中3」と予想されますが、「仮定法」はどこまでやり、どの学年で触れるのかは現段階では未定です。

●移行期間中の対応

- ・ 中学卒業までに合計2,200～2,500語程度の語彙
- ※小学校の600～700語 + 1,600～1,800語
- ・ 上記の高校から移動するものに触れることが望ましい。